

【資料紹介】

竹林寺廃寺の礎石について

主任学芸員 篠ヶ谷路人

1. はじめに

竹林寺廃寺は、島田市船木に所在する奈良・平安時代の古代寺院である。広大な茶畑のなかで金堂跡と塔跡が他の畑と比べ少し高くなっており、その姿を伝えている。寺院の所在については、昭和初期より知られ、昭和五年に刊行された『静岡懸史』に紹介されている。昭和五十年代、茶園改植の計画が持ち上がり、静岡県教育委員会により発掘調査が実施され、金堂・講堂・塔跡などの建物跡が検出された。

発掘調査では、柱穴、根石などは確認されたが、礎石については確認されなかった。郷土史家増田茂雄氏は、聞き取り調査を行い礎石の行先を記録しており、『島田風土記 ふるさと初倉』のなかで大塚淑夫氏が紹介している。過去二回、大塚淑夫氏と礎石と言われる石を確認したことから、この機会に礎石について記録することを目的とする。

2. 竹林寺廃寺の礎石

増田茂雄氏の紹介している場所を見てみよう。

- ① 金堂西南隅の土留め石として残されている。
- ② 岡田医王寺に相当数運んだらしい。竹林軒の石碑台石・従軍記念碑台石・中庭の庭石などにそれらしいものも多く見られる。
- ③ 八幡宮に二つ以上運ばれた。その一つは八幡宮東北の溝(今よりかなり深かった)の橋にしたが、今は道を上げ、溝もなくなったので、そのまま埋まってしまった。いま一つは、鳥居脇に置いてある。これらの石は16人で運んだという。
- ④ 一つは延命地藏尊の台座に、一つは水野辰平氏屋敷付近にある。
- ⑤ 古老の言に南原の氏神に運んだ。(鳥居前の玉垣南・金毘羅宮手洗台石・津島神社手洗鉢・従軍碑などにそれらしきものあり)(玉垣以外は古墳の石の可能性あり)
- ⑥ 大草家に三個以上運ばれたらしい。
- ⑦ 庭師の塚本寅次氏が基壇東側から三個家に運んだが、一個は半裁し、一個は不明。

- ⑧ 太田博氏宅にある大石も、八幡宮横から運んだと言われるが、柱当ての細工跡も残るので、竹林寺関係のものかも知れない。
- ⑨ 藁科治作氏の西側に完全な礎石と思われる石があるが、やや小さいので竹林寺のものかどうかは不明。
- ⑩ 県立島田商業高校の正門東側の築山に礎石が置かれている。自然石の表面に、径八十cmの円形の作り出しが掘られている。(元の所在地不明)
- ⑪ 県立金谷高校の庭石にも礎石が使われているという。

その他

- ・竹林寺跡西南の山を開墾したとき、五輪塔や白骨がたくさんでた。
- ・基壇は御殿と言われ、松林となっていた。その凹地に池があり、子供の水遊び場になっていた。その側に大きな鐘が転がしてあり、その後この池に埋められたと思われる。

3. 調査した礎石について

今回紹介する礎石は、増田茂雄氏の記述にある②岡田医王寺、⑥大草家、⑧太田博氏宅、⑩県立島田商業高校の7個である。以下、調査した結果を記述する。

松原山医王寺の礎石

松原山医王寺は竹林寺廃寺より北に約1kmの島田市船木に位置する。応永年間、若狭国竹林禅師八百比丘が開創、現在、曹洞宗の寺院だが、創建当初は真言宗、名称は竹林院と称したと言われる。寺院内には、応永十年の年号が刻まれた五輪塔地輪があり、墓地内にも15世紀から16世紀にかけての宝篋印塔相輪や組合五輪塔、一石五輪塔などがみられる。

東側参道の最初の階段中段右側に「竹林軒」と刻まれた石碑がある。この台石が礎石と思われる石である。石碑は正面に「大正元年子年十一月三日 石工 傳十 切山最明寺世話人 檀中 建立 村松弥四郎 村松弥助 加藤和十」と刻まれている。形は方形、石材は砂岩、大きさは長径70cm、短径70cm、厚さは20cmである。



【松原山医王寺の石碑台石】

大草高重宅礎石

大草高重は、明治二年七月に中條金之助を隊長とする牧之原開拓士族の副隊長として入植する。大草高重の住宅は、竹林寺廃寺から500mほど西南に位置する。明治四年から五年頃に吉田町の旧役場の建物を移築して建てられた。母屋と西側の奥座敷の窓辺に三個の礎石と思われる石が、踏台として利用されていた。

礎石1

奥座敷の南側にあった踏石である。形は楕円形、石材は褐色凝灰岩、大きさは長径95cm、短径80cm、厚さ25cmである。表面に格子状の刻みがあるが、いつつけられたものなのかは不明である。



【礎石1】



【表面の刻み】

礎石2

母屋東側に設置された踏石である。形は長方形、石材は砂岩、大きさは長径80cm、短径52cm、厚さ18cmである。中央に凹みがみられる。広い面をそのまま上向きに設置されている。方形に粗く加工された石である。



【礎石2】

礎石3

母屋西側に設置された踏石である。形は長方形、石材は砂岩、大きさは長径102cm、短径40cm、厚さ36cmである。



【礎石3】

母屋裏側西より設置された踏石である。形は長方形、石材は砂岩、大きさは長径102cm、短径40cm、厚さ36cmである。広い面を横にして埋めて踏台としており、表裏の柱などの痕跡は不明である。粗く方形に加工されている。

太田博(登)宅

竹林寺廃寺より東側に1kmほど下がった八幡神社南側に位置する。先祖が石の愛好家のような礎石と伝わる石を2個所有している。

礎石1

農機具小屋の奥に置かれた石である。形は正方形に近く、石材は砂岩、長径 70cm、短径 56cm、厚さ 10cm である。左側に深さ 2cm ほどの楕円状の凹みがある。



【太田家礎石1】

礎石2

農機具小屋手前に置かれた石である。形は長方形、石材は砂岩、長径 74cm、短径 48cm 厚さ 22cm である。長方形に粗く加工されている。



【太田家礎石2】

県立島田商業高等学校

大井川を超えた島田市祇園町の県立島田商業高等学校にある。竹林寺廃寺からおよそ7km 南に位置する。北側正門右手の庭園築山にある。形は楕円形、石材は凝灰岩、大きさは長径 120cm、短径 98cm、厚さ 15cm ある。中央に直径 80cm の円形の

作り出し部をもつ。



【島田商業の礎石】

4. 竹林寺廃寺の建物跡について

礎石について述べてきたが、実際の発掘調査による建物の検出状況を述べておきたい。

発掘調査では、南側を正面とし、東西 92m 南北 162m の溝で囲まれた寺域内に塔跡、金堂跡、講堂跡、経蔵や倉庫と考えられる建物跡が検出されている。出土遺物から奈良時代に創建され、火災により焼失、平安時代に再建されたことが判明した。塔は創建時だが、金堂・講堂は再建時に修復され、創建時は瓦葺、再建時は茅葺建物であったとされる。

検出された建物跡のなかで、明らかに礎石建物と判明しているのは金堂のみである。

今回、実測図の原図を参考に金堂跡の柱穴一覧表を作成した。長径 90cm から 150cm の柱跡が 27 基検出され、根石と考えられる河原石が 23 基柱穴内に残されていた。基壇の大きさは、東西 15.5m 南北 13.5m、桁行 5 間梁行 4 間である。講堂は東西 13.6m 南北 7.4m、攪乱により詳細な間取りなどは解っていない。金堂は礎石建物だったので解っているので、最低でも 27 個の礎石があったことが想定され、講堂が礎石だった場合は、それ以上礎石が存在したことになる。

5. 伝竹林廃寺礎石と県内の寺院跡の礎石

今回紹介した礎石と伝わる石の一覧表を作成した。形状は7点のうち、楕円形が2点、方形が5点と方形が多い。石材は7点のうち1点が凝灰岩、6点が砂岩である。大きさは長径 70cm から 120cm まであり、4点が 70cm 代となる。厚さは 10cm から 36cm まであり、10cm 代から 20cm 代が5点ある。

静岡県内の礎石

県内で同時期の寺院として静岡市片山廃寺、静岡市尾羽廃寺、沼津市日吉廃寺の礎石と比較してみたい。

静岡市片山廃寺(静岡市大谷)

静岡市大谷の寺院跡で金堂・講堂・僧房などの建物跡が検出されている。溝や塀により寺域を区画しており、その規模は東西約 145m 南北約 190m の広大な敷地となる。有度氏の氏寺や駿河国分寺など諸説あり、近年塔跡の発見から駿河国分寺が有力とされる寺院跡である。

礎石は金堂跡 11 基、講堂跡 17 基、僧房跡ではボーリングステッキなどで有無を調べ、52 基を確認、合計 80 基の礎石を確認している。金堂跡 11 基のうち、東側から2列、北側から2列目の礎石は柱座造出しがある。また、使用されている礎石は大(1.6m×1.2m)、小(0.8m×1.8m)の二種類を組み合わせている。講堂跡は、17 基を確認、東側から2列目、南から3列目と4列目は上面に円形状の作り出し部をもつことが報告されている。大きさが二種類あること、作り出し部のある礎石を使用し、設置には造出し部の有無を組み合わせていることがわかる。

静岡市尾羽廃寺跡(静岡市清水区庵原)

静岡市清水区庵原の寺院跡で発掘調査により金堂・講堂が検出されている。塔跡は確認されていないが塔心礎が見つかっていることから、塔が存在していたことは明らかである。寺域は不明、この地を治める庵原氏の氏寺と考えられている。礎石は平成 30 年の発掘調査で2点出土しており、礎石1は長径 100cm 短径 70cm 厚さ 16cm である。扁平な河原石を使用しており、使用痕らしき痕跡がある。礎石2は長径 60cm、短径 40cm 厚さ 25cm である。こちらも扁平な河原石を使用し、使用痕らしき痕跡がある。石材はいずれも砂岩の円礫を使用している。

沼津市日吉廃寺(沼津市大岡日吉)

沼津市大岡日吉の寺院跡で昭和初期の発掘調査により金堂・講堂などの寺院があるとされてきた。近年区画整理に伴う発掘調査により、想定していた建物跡はほとんど消滅しており、伽藍配置を見直す結果となった。塔跡とされる場所に礎石 12 点が市指定文化財に指定されている。この礎石の現地確認を行い、一覧表を作成した。12 点のうち 10 点が造りだ

し部をもつタイプである。大きさは長径が 105cm から 130cm、短径は 85cm から 123cm、比較的 100cm 代の石を使用している。形状は楕円形、円形の造り出し部をもつことが特徴である。円形の造り出し部が二重にあり、外径が 70cm から 80cm、内径が 50cm から 56cm となる。造り出しの径が 70cm、55cm と統一性がみられる。



【日吉廃寺の礎石】

7. まとめにかえて

ここでは改めて県内の同時期の礎石と比較し検証してみたい。

紹介した礎石は、県内の事例と比較しても大きさや形状に類似していることから、伝承どおり礎石と理解される。片山廃寺の事例でも、大小の組み合わせが見られることから、大きさにバラツキがあっても良いのかもしれない。島田商業にある造り出し部をもつタイプは珍しいが、日吉廃寺のように多数使用するだけでなく、片山廃寺のように金堂と講堂の一部のみに使用するケースもある。したがって、金堂や講堂の一部に使用されたことも想定される。

方形タイプのものは、砂岩製で粗く加工されていることから、古墳時代後期の横穴式石室の石材を転用した可能性もある。竹林寺廃寺周辺には、前方後円墳の中原3号墳や水掛渡古墳群など後期古墳が分布する。ただし、遺跡の分布する牧之原台地は大井川の河床が隆起して形成しているため、河原石は採取できるが石室に利用される砂岩製の堆積岩はみられない。周辺の横穴式石室をみても、愛宕塚古墳や高根森2号墳など主要古墳以外は河原石を使用している。

石材の入手先を考えた場合、砂岩製の堆積岩の採取地としては、藤枝市鬼岩寺周辺、島田市阿知ヶ谷東山、掛川市日坂などが知られる。東山や日坂は近世まで石切場として利用されていたようだが、東光寺や長松院といった天台宗や真言宗の有力寺院が隣接する。墓石を作るために石切り場を運営する

石工と寺院は結びつきが強く、中世より近世まで継続した繋がりがみられる。

竹林寺廃寺の礎石として伝わる石は、牧之原開拓土族である大草高重宅や松原山医王寺、八幡神社など、500mから1kmと周辺の神社・寺院・有力者宅に運ばれている。明治時代牧之原開拓により、瓦が発見され、遺跡の発見に繋がったのかもしれないが、松原山医王寺の創建は竹林軒であることから、医王寺へ積極的に運ばれた可能性もある。山門手前の「不評葦酒山門」の石碑台石は、細長く加工された砂岩だが、大きさや形状から塔心礎のようにも見える。石碑の年号は文政十年であり、もしかしたら江戸時代には運ばれていたのかもしれない。

竹林寺廃寺の発掘から50年近く経過している。静岡県内では、遠江・駿河・伊豆の国分寺以外、伽藍配置が明らかになっている寺院は竹林寺以外見られない。本論がささやかながら、地元で伝わる竹林寺廃寺の継承の一つになることを期待したい。

【参考文献】

- ・『竹林寺廃寺』島田市教育委員会 1980
- ・『島田風土記 ふるさと初倉』島田市教育委員会 1996
- ・『史跡片山廃寺発掘調査報告書(主要遺構調査編)』静岡市教育委員会 2016
- ・『尾羽廃寺跡—市道尾羽草ヶ谷2号線整備に伴う発掘調査報告書—』静岡市教育委員会 2020
- ・『中條景昭と牧之原開墾』中條金之助像建立実行委員会 1988
- ・『牧之原と最後の幕臣 大草高重』初倉古美の会 2000

伝 竹林寺麿寺礎石

cm

| No | 所在地 | 形状 | 石材 | 長径 | 短径 | 厚さ | 造出部 |
|----|------|-----|-----|-----|----|----|-----|
| 1 | 医王寺 | 方形 | 砂岩 | 70 | 70 | | |
| 2 | 大草家 | 楕円形 | 砂岩 | 95 | 80 | 25 | |
| 3 | 大草家 | 方形 | 砂岩 | 80 | 52 | 18 | |
| 4 | 大草家 | 方形 | 砂岩 | 102 | 40 | 36 | |
| 5 | 太田家 | 方形 | 砂岩 | 70 | 56 | 10 | |
| 6 | 太田家 | 方形 | 砂岩 | 74 | 48 | 22 | |
| 7 | 島田商業 | 楕円形 | 凝灰岩 | 120 | 98 | 15 | 80 |

日吉麿寺礎石

cm

| No | 所在地 | 形状 | 石材 | 長径 | 短径 | 厚さ | 造出部 | 直径 |
|----|-------|-----|-----|-----|-----|----|-----|----|
| 1 | 沼津市日吉 | 楕円形 | 凝灰岩 | 130 | 100 | | 76 | 56 |
| 2 | 沼津市日吉 | 楕円形 | 凝灰岩 | 120 | 90 | | 74 | 54 |
| 3 | 沼津市日吉 | 楕円形 | 凝灰岩 | 100 | 90 | | 70 | 55 |
| 4 | 沼津市日吉 | 楕円形 | 凝灰岩 | 100 | 90 | | 70 | 55 |
| 5 | 沼津市日吉 | 楕円形 | 凝灰岩 | 110 | 110 | | 74 | 55 |
| 6 | 沼津市日吉 | 楕円形 | 凝灰岩 | 105 | 85 | | 74 | 55 |
| 7 | 沼津市日吉 | 楕円形 | 凝灰岩 | 124 | 103 | | 76 | 56 |
| 8 | 沼津市日吉 | 楕円形 | 凝灰岩 | 110 | 103 | | 73 | 55 |
| 9 | 沼津市日吉 | 楕円形 | 凝灰岩 | 130 | 123 | | 80 | 55 |
| 10 | 沼津市日吉 | 楕円形 | 凝灰岩 | 110 | 106 | | 76 | 56 |
| 11 | 沼津市日吉 | 楕円形 | 凝灰岩 | 100 | 90 | | | 50 |
| 12 | 沼津市日吉 | 楕円形 | 凝灰岩 | 100 | 90 | | | 56 |

尾羽麿寺礎石

cm

| No | 所在地 | 形状 | 石材 | 長径 | 短径 | 厚さ | 造出部 |
|----|-------|-----|----|-----|----|----|-----|
| 1 | 静岡市尾羽 | 楕円形 | 砂岩 | 100 | 70 | 16 | |
| 2 | 静岡市尾羽 | 楕円形 | 砂岩 | 60 | 40 | 25 | |

竹林寺麿寺金堂跡柱穴一覽表

cm

| No | 根石有無 | 形状 | 長径 | 短径 | 厚さ | 備考 |
|----|------|-----|-----|-----|----|----|
| 1 | 有 | 橢円形 | 130 | 110 | 16 | |
| 2 | 有 | 方形 | 110 | 80 | 5 | |
| 3 | 有 | 橢円形 | 120 | 80 | 5 | |
| 4 | 有 | 橢円形 | 142 | 94 | 10 | |
| 5 | 有 | 橢円形 | 100 | 90 | 6 | |
| 6 | 有 | 橢円形 | 126 | 120 | 6 | |
| 7 | 有 | 円形 | 100 | 100 | 7 | |
| 8 | 有 | 方形 | 140 | 140 | 9 | |
| 9 | 有 | 方形 | 90 | 90 | 4 | |
| 10 | 有 | 円形 | 120 | 110 | 9 | |
| 11 | 有 | 橢円形 | 130 | 110 | 6 | |
| 12 | 有 | 方形 | 100 | 90 | 13 | |
| 13 | 有 | 円形 | 110 | 110 | 7 | |
| 14 | 有 | 橢円形 | 120 | 110 | 15 | |
| 15 | | 円形 | 100 | 100 | 6 | |
| 16 | 有 | 方形 | 160 | 110 | 10 | |
| 17 | | 橢円形 | 140 | 110 | 15 | |
| 18 | 有 | 橢円形 | 100 | 90 | 8 | |
| 19 | 有 | 円形 | 110 | 100 | 9 | |
| 20 | 有 | 円形 | 100 | 100 | 10 | |
| 21 | | 方形 | 100 | 100 | 7 | |
| 22 | | 橢円形 | 150 | 120 | 10 | |
| 23 | 有 | 円形 | 100 | 100 | 7 | |
| 24 | 有 | 橢円形 | 130 | 100 | 12 | |
| 25 | 有 | 橢円形 | 150 | 110 | 6 | |
| 26 | 有 | 橢円形 | 120 | 100 | 10 | |
| 27 | | 方形 | 150 | 110 | 15 | |